

## 精華小学校の取組

## 読書案内の冊子

# 良書と出あう、100さつの本運動

### 1 活動の概要

読書を通して自分を見つめ、生きていく方向性を見つけてほしい。そうした願いを込めて、1983年から始まった「100さつの本運動」。小学校6年間で必ず読んでもらいたい本の指針として配布する冊子をもとに、子どもたちは積極的に読書を重ね、知識と心を豊かにしていきます。



### 2 活動の意義

100さつの本には、長く読み継がれている良書が選ばれています。それは、「自然淘汰」と同じように、時代を超えて親しまれる本には、それだけの価値があるからです。

読書の体験は、知的好奇心を満たし、心を耕し、生き方を導いてくれます。人間形成に大きく関わる学童期に、様々な良書と出あい、人間の幅をひろげてほしいと願っています。



### 3 活性化のための各方面での取組

何かを取り組ませたいときには、**物と時間と場所**を用意することが大切です。学校では、児童の身近に100さつの本を置き、「読書の授業」で読み進める時間を確保しています。

また、ご家庭にも協力を依頼します。「読み聞かせは耳からの読書」と言われるため、読み聞かせをしてもらった本も、自分が読んだ本として数えています。

図書日よりでは、教員が順番に100さつの本を紹介する取組を10年間ほど継続し、学校全体で100さつの本運動を盛り上げています。



### 4 児童の声

「100さつの本は、短編から長編、泣けるものから笑えるもの、低学年から高学年向けまで、様々な本がそろっています。ぼくはあと数冊で100さつ読破します。」  
6年生 K.U

「100さつの本の冊子には、題名だけでなく、あらすじもものっているのので、その時の自分に合った本を読むことができます。」  
5年生 R.U



教員の紹介例